

2023年度 住宅ローン貸出動向調査結果

調査の概要

住宅ローンを取り扱う金融機関に対し、住宅ローンに関する取組姿勢、営業戦略、リスク、審査、証券化の動向などに関するアンケート調査を行い、その回答をとりまとめた結果です。

※ 調査の実施時期：2023年7～9月、回答機関数：301機関

※ 本調査の住宅ローンには、【フラット35】買取型及び【フラット35】保証型を含まない。

※ リバースモーゲージの貸出残高の設問は2022年度末実績、それ以外の設問は2023年6月末現在の状況。

調査結果の主なポイント

※ <>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

○ 新規の住宅ローンへの取組姿勢は、「積極的」が7割を超える。<p. 3>

新規の住宅ローンへの取組姿勢について、「消極的」と回答した金融機関はなく、「積極的」と回答した金融機関の割合が7割を超える（現状：前年度73.3%→今年度72.1%、今後：前年度75.0%→今年度72.1%）。また、残りの3割の金融機関は「現状維持」と回答している。

○ 環境配慮型住宅ローンを取り扱う金融機関が、取扱いを検討中の金融機関とともに、それぞれ増加している。<p. 16>

環境配慮型住宅ローンを「取り扱っている」の金融機関の割合は32.9%（前年度から2.4%増）、「取扱検討中」の同割合は8.3%（同2.3%増）で、合わせると全体の41.2%を占める。

○ 「SDGs やカーボンニュートラルへの取組の一環」として、環境配慮型住宅ローンの取扱いを開始する金融機関が増加している。<p. 17>

環境に対する関心が高まる中、住宅ローンの提供を通じて、持続可能な社会の実現に貢献することを打ち出す取組の一環として環境配慮型住宅ローンの取扱いを開始する金融機関が増加している（前年度58.2%→今年度67.7%）。

○ リバースモーゲージの年度末残高は増加する傾向が続き、2022年度末で1,800億円を超える。<p. 12>

2022年度末のリバースモーゲージの貸出残高（回答のあった金融機関の合計金額）は、1,803億円（前年度から6.4%増）となり、増加する傾向が続いている。